

災害人文学研究会

2018年度第3回研究会

主催：指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点
東北大学東北アジア研究センター災害人文学ユニット

ドキュメンタリー映画『廻り神楽』を観る



指定国立大
災害科学 世界トップレベル研究拠点



大津波を生き抜いた
黒森神楽[国指定重要無形民俗文化財]と
三陸の《現在》を描くドキュメンタリー

春はもうすぐなのす
神楽が来れば、

昔々…

峠を越え、山から山、

海から海へ、一夜の

宿を乞いながら

旅をする神楽衆が

おりました

ある時大津波があつて、

海辺が大変な目に

遭いました。神楽衆は

人々を慰めようと

村々を訪ねました。

廻り神楽

かくら

出演：黒森神楽保存会
共同監督：大澤未来・遠藤協【東プロデューサー】
制作：ヴィジュアルフォークロア
助成：文化庁文化芸術振興費補助金
支援：一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟
機材協力：小塚日文

2017年/日本/94分
<https://www.mawarikagura.com/>
@mawarikagura

2018年10月2日(火) 18:15~20:30

会場：

東北大学川内北キャンパス
講義棟B棟101室
(宮城県仙台市青葉区川内41)

交通アクセス：

- ・駐車場はございません。地下鉄東西線をご利用ください。
(最寄駅/キャンパス直結：川内駅)
- ・東北大学インタラクティブマップでは位置情報の取得が可能です。「川内 講義棟 B 棟」と検索してご利用ください。
(<http://www.tohoku.ac.jp/map/ja/>)

入場料：無料 / 申込：不要

問い合わせ：

saigaijinbungaku@gmail.com

プログラム：

第一部 | 映画上映会 18:15~19:50
第二部 | 意見交換会 20:00~20:30

第二部「意見交換会」登壇者：

遠藤協

(『廻り神楽』共同監督・プロデューサー)

北村皆雄

(『廻り神楽』
エグゼクティブプロデューサー)

ファシリテーター：

小谷竜介

(東北アジア研究センター客員准教授、
東北歴史博物館副主任研究員)

東日本大震災に対応する形で、文化人類学・宗教学・歴史学は災害復興や防災に関わる調査研究事業を行うようになりました。従来、これらの学問分野は基礎研究を基軸とし応用的な側面は副次的な扱いでしたが、震災以降そうした状況は変化しました。具体的に言えば、文化人類学や宗教学は民俗芸能などの無形民俗文化財がもつ震災復興への役割についての実践的調査研究を、歴史学は地域の歴史文書資料に関わる保全活動を行ってきました。本ユニットは、これまで蓄積されてきたこれらの分野における災害に関わる実践的研究の成果を踏まえ、新たな研究領域の開発をふまえて、さらなる発展と総合化を行うことを目的とします。

災害の状況や体験者の証言、失われつつある地域の伝統行事や芸能などを記録し、背景の物語を交えてわかりやすく紹介する映像記録は、防災教育や被災地の歴史文化の継承・発展を喚起する媒体として文化財という意味もあります。東日本大震災に関連する映像は膨大であり、ドキュメンタリー映画だけでも数百タイトルが製作・上映されています。震災映像による地域社会の防災力を、震災前だけでなく震災後の災いを防ぐという意味も含めて活かすべく、国内はもちろんのこと海外の記録映画の製作者・研究者との研究会の開催および情報発信を通じて、震災映像をつくる・観る・伝える文化の発展と活用の方法論を探ります。

災害人文学研究ユニット: <http://www.cneas.tohoku.ac.jp/news/2018/unit01.html>

廻り神楽

上映作品

生きていても人も訪ねます。死んだ人も訪ねます。
黒森神楽衆は、今日も海辺の村々を廻っています。

大津波のあとも
折りの舞を続ける黒森神楽
春になると権現様のお供をして岩手県の沿岸を巡る「廻り神楽」。黒森神楽は三四〇年以上、南北一五〇キロにおよぶ地域を巡り続けてきた。海とともに生きる三陸の人々は、日々の生活や人生の節目の祈りを神楽に託してきた。これほど海辺の人々の人生に寄り添ってきた神楽は他にない。海の安全、大漁祈願、家の安寧、子や孫の健やかな成長を舞い祈り、亡き人には神楽念仏を捧げる。この映画は、東日本大震災の後も途切れることなく続く黒森神楽の巡行に密着。震災から六年を迎えて、なお激しい変貌と困難が続く三陸沿岸の《現在》と《人々》を描く。



神楽を次の世代に引き継ぐのが私の使命。この映画はそれを後押ししてくれる。
松本文雄【黒森神楽保存会代表】

黒森神楽は陸中沿岸の人々の魂の抛り處。震災後もその生きざまに寄り添い、支え続ける。
神田より子【民俗学者】

東北に根づく芸能には困難から立ち上がる魂が込められている。
二代目高橋竹山【津軽三味線奏者】

ATP若手映画プロジェクト第5回支援作品 廻り神楽
2017年/日本/94分/<https://www.mawarikagura.com/>

語り: 一城みゆ希 昔話朗読: 森田美樹子
構成: 北村皆雄・遠藤 協 撮影: 明石太郎・戸谷健吾 フォーン撮影: 古館裕三
撮影助手・スチル: 井田裕基 照明: 工藤和雄 録音・効果: 齋藤恒夫 サウンドデザイン: 森永泰弘
整音: 飯森雅允 編集: 田中藍子 制作デスク: 山上亜紀・渡邊有子
題字デザイン: 杉浦康平+新保韻香 宣伝美術: 島田 薫
共同監督: 大澤未来・遠藤 協(兼プロデューサー) ミニゼクション: 三浦麻子・北村皆雄
製作: ヴィジュアルフォークロア 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-12-12-3F
TEL: 03-3352-2291 FAX: 03-3352-2293 E-mail: info@vfo.co.jp

三陸の信仰とたくましさを描く
共同監督の大澤未来と遠藤協は、2012年から岩手県宮古市の「震災の記憶伝承事業」に参加し、被災地に通い続けて来た。初監督作品となる本作で、三陸の豊かな信仰、伝説や昔話を通して、度重なる大津波を生き抜いてきた、たくましさの源を探る。なぜ人々はこの地に生き続けるのだろうか？

第二部「意見交換会」 登壇者紹介

遠藤 協 (えんどう かのう)
『廻り神楽』共同監督・プロデューサー。
1980年生。茨城県出身。大学で日本民俗学や文化人類学を学んだあと、映画美学校ドキュメンタリーコースを修了。全国各地の民俗文化を取り上げたドキュメンタリー映画、テレビ番組、教育映像等の企画・演出に携わる。2012年から岩手県宮古市の「震災の記憶伝承事業」に参加し被災地に通いはじめる。

北村 皆雄 (きたむら みなお)
『廻り神楽』エグゼクティブプロデューサー。
1942年生。早稲田大学第一文学部卒。ドキュメンタリー映画監督、映像人類学・映像民俗学者、(一社)日本映像民俗学の会代表、早稲田大学アジア研究所招聘研究員、(株)ヴィジュアルフォークロア代表。沖縄、日本各地、ヒマラヤ、チベット、インドなどアジアの自然、文化、生活を描いてきた。

ファシリテーター:
小谷 竜介 (こだにりゅうすけ)
東北アジア研究センター客員准教授、東北歴史博物館副主任研究員。
専門は日本民俗学。